

# 平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	3D-CAD技術者養成に関する教育プログラムの実践														
法人名	学校法人 新潟総合学院														
学校名 ( ( 2 ) のみ )	国際情報工科専門学校														
代表者	理事長 池田 弘	担当者 連絡先	小林 一雄 TEL 024-956-0030												
<p>1. 事業の概要</p> <p>現在、製造業においては3D-CADの導入が積極的におこなわれており、これにより従来の設計・製造の手法が大きく様変わりをしている。 技能・技術を持った経験豊かな技術者が、3D-CADに関する知識・操作技能を習得し再就職できる人材育成のカリキュラムを開発する。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>募集定員10名に対し定員通りの10名で講座を開始。(充足率100%) 但し講座途中で受講中止者が1名居り修了者は9名。(修了率90%) 講座終了後3ヶ月間の再就職者5名。(再就職率56%)</p> <table border="0"> <tr> <td>年代別の内定率：</td> <td>50代以上</td> <td>4名中4名</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>40代</td> <td>2名中0名</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>30代以下</td> <td>3名中1名</td> <td>33%</td> </tr> </table> <p>②事業により得られた成果</p> <p>計画段階から企業(株式会社エービーシステム)に参画していただき、実際の現場に即した講座内容の開発がなされた。 製造関連の知識・経験を持つ者に対し、それを活用するための3D-CADの知識・操作教授に関するノウハウの蓄積ができた。 (ソフトの操作から応用課題、試作品制作、プレゼンテーション力向上訓練までの流れについて)</p> <p>また、受講者の再就職について50代以上の実績が100%となり、中高年の再就職については効果をあげる事が出来たと考える。</p> <p>③今後の活用</p> <p>依然として製造関連産業では3D-CAD技術者のニーズは高く、社会人の再チャレンジ事業の継続はもちろんの事、これにとどまらず若年者の訓練(ニート支援)や修学校のカリキュラムにも応用が可能と考える。</p>				年代別の内定率：	50代以上	4名中4名	100%		40代	2名中0名	0%		30代以下	3名中1名	33%
年代別の内定率：	50代以上	4名中4名	100%												
	40代	2名中0名	0%												
	30代以下	3名中1名	33%												

#### ④次年度以降における課題・展開

受講生の募集活動についての周知が不十分で、予想したより問い合わせが少なかった。それに伴い受講生の年齢・経歴も当初想定したものと異なり、成果にばらつきが見られた。当初想定した、経験を持つ再就職希望の中老年者のニーズはもっと高いと考えられるので、募集・告知の方法を再考する必要がある。(例:新聞折込による告知など)  
また、よりきめ細かい社会ニーズを把握するために企業アンケートの実施も検討すべきと考える。

### 3. 事業の実施に関する項目

#### ①ニーズ調査等

今回の事業では、社会情勢・本校への企業貴求人状況・協力企業からの情報などからニーズを推測し、3D-CAD技術者養成の必要性を判断した。

#### ②カリキュラムの開発

本校の持つ施設・設備と3D-CAD教育実績に製造関連企業が持つノウハウを融合させることによる、より実践的な教育カリキュラムの開発に向けて、講座開設に向けて協力企業との連携を強め、カリキュラム作成・教科書選定などから共同作業を推進した。

#### ③実証講座

3D-CADの基本操作から応用演習まで4週に渡り講座を開講した。定員通りの10名の参加となったが、講座前半は本校講師が基本操作を担当。後半は協力企業(株式会社エービーシステム)のインストラクタを講師に招き対応した。特に後半は個々人の進度・方向性に差が発生してきた為、1日6時間の講座時間を1時間延長して対応した。  
最終的に1名が途中退講となったが、残りの者は最終日のプレゼン・課題提出まで完了させる事が出来た。

再就職についての追跡調査の結果、50代以上の受講者4名が全員就職を決める事ができ、狙い通りの成果となった。

#### ④その他

より理解度を深めるために、企業の協力のもと工場見学を実施した。  
企業秘密の点から見学制限区域があり個人によっては期待していた設計エリアの見学が出来ず残念だったようである。しかし現場で実際に講座で使用しているシステムが稼動しており、理解を深める良い機会となった。